Vol. 102
2023年10月1日発行（季刊）

やまもも

高宮八幡宮社報

天てらす
神の御光ありてこそ
わが日の本はくもらざりけれ

高宮八幡宮
秋季大祭
（宮座・大祭・催事・夜神楽）

10月22日（日） 催事 17時より（雨天決行）

秋の収穫の時期に合わせ、一年の稔（みの）りや成長に感謝する神道で最も重要な祭祀です。夜神楽ではお子様の健やかな成長を願う鬼祈願を実施します。

今後の祭事

- 月次祭　毎月1日10時より・15日11時より
- 神道講座　毎月第一土曜日 14時より
- しめなわ造り　11月26日（日）10時より

〒815-0083
福岡市南区高宮4-9-34
TEL・FAX 092-522-8435
https://takamiyahachimangu.com/

秋季大祭

（宮座・大祭・催事・夜神楽）

10月22日㊐（雨天決行）

●大祭 14時より ●夜神楽 18時頃より

感謝を表す神饌（しんせん）作りを行う「宮座」、感謝の奉告とこれからの御守護をお願いする「大祭」、そして神と人が一緒に祝って楽しむ「夜神楽」の3つの祭事が行われます。

❖それぞれの祭事について

宮座…高宮八幡宮世話人会の「山桃会」を中心に餅つきを行い、神様へのお供え物「神饌（しんせん）」を作ります。

大祭…宮座でこしらえた神饌と共に、海川山野の食物を氏子代表が献幣使（けんべいし）として奉り、神様への感謝を捧げます。

夜神楽…感謝の表現として神楽を奉納し、神様と共に楽しいひとときを過ごします。

明治時代から続く岩戸神楽保存会「珍楽社」（福岡県那珂川市）

1.大祭では剣を用いた祓いの神事が執り行われます。

2. 奉納神楽の合間に、おひねりをいただきました。
3. つきたてのお餅で、世話人会による神饌作り。
4. 夜神楽のなかで行われる鬼祈願の様子。

お祭りのご参加について

観覧は無料です。来場されましたら、はじめに手水をとって参拝してから、ご観覧ください。

◇17時より　音楽会
●まじゅん（琉球民謡）…神に歌を捧げる儀式が起源の琉球民謡。
●clef（洋邦POPS）…耳なじみのある洋邦POPSのバンド演奏。
●花音（琴演奏）…村祭りや夕日、赤とんぼなどを、琴で奏でます。

◇18時頃より（予定）　夜神楽
岩戸神楽保存会「珍楽社」による福岡県無形民俗文化財指定「岩戸神楽」が奉納されます。

鬼祈願（申込制）

夜神楽で、鬼がお子様を抱っこして無病息災を祈願するハイライトシーンです。申し込みが必要です。当日お声掛け下さい。
●対象年齢：1～3歳
●受付人数：先着15名程度（鬼祈願写真2枚ほど）
●初穂料：三千円より

❖神事を識（し）る「秋季大祭」

天皇陛下のお役目のひとつが日本の国、国民のために祈ることです。なかでも最重要とされている祭祀が、収穫祭である「新嘗祭」です。一年の稔（みの）りに感謝を奉告した後、お供え物を陛下と神様が共に食される神人共食の儀礼があります。この時期、全国各地の神社で行われる秋祭りは、「新嘗祭」の地域版といえましょう。

当宮の秋祭りでも宮座でこしらえた神饌を祭典後に食し、神人共食を行う伝統があります。また、神楽奉納では人と神とが共に楽しみ、笑い、時を過ごします。一連の祭事には「神と人とが共にある」という共通のテーマがあることが伺えます。

「人が生きること」＝「神と生きること」という古来日本人が受け継いできた感覚は神道の根幹のひとつです。そうした感覚が、「お天道（てんとう）様が見ているから恥ずかしいことは出来ない」「先祖に会わせる顔がない」といった規範意識を生み、今に続く日本人の高い倫理観の原点なのです。それを忘れないように、こうした神社の伝統を通じて継承していくことができればと思います。

❖秋季大祭ご奉賛のお願い

かつて一度途絶えた神楽を奉納できるようになり、当宮固有の特殊神饌を継承できるのも皆様の崇敬と奉賛の賜物でございます。これからも高宮八幡宮秋季大祭を末永く継承するべく、皆様からのあたたかいご奉賛を賜れますようお願い申し上げます。地域のお祓い、守護とともに心のふるさとづくりに貢献頂けますと幸いでございます。ご不明な点は社務所までお問い合わせください。

☎092・522・8435

ボランティアスタッフ募集

高宮八幡宮秋季大祭の「宮座」（10月22日9時より）、ならびに「しめなわ造り」（11月26日10時より）にご奉仕いただける方を公募しております。詳しくは社務所まで。

❖ 夏まつりのご報告

6月25日に夏越祭・獅子まつりを斎行いたしました。当日は祭事・茅の輪くぐりを執り行い、子どもみこしがスタート。神輿（みこし）をかついだ子どもたちと高宮町内や大楠などを巡り、セブンイレブン福岡高宮駅前店に立ち寄って、お茶とアイスをふるまっていただきました。

また、雨予報が心配されましたが、神様のご加護の元、最後まで天気がもってくれました。かれこれ20数年、あらゆる祭事で天候による影響が無かったことは大変ありがたいことです。ご協力いただきました、地域の皆様、地元企業の皆様に厚く御礼申し上げます。

家内安全・無病息災を祈りました。

❖ 山桃会

（世話人会）
椿 博之会長より

今年も災厄を祓い、無病息災を祈願する夏まつりを、たくさんの参加者、地域企業の皆様と共に斎行することができたことを、心より御礼申し上げます。

今回の夏まつりでも、子どもたちが神輿をかついで町内を練り歩き、境内でヨーヨーすくいや射的などのゲームを楽しみました。神社での楽しい思い出とともに、地域の皆様に、産土神に親近感を持っていただければ幸いです。そして、こういった祭事を通して日本古来の伝統・文化を継承していくことが何より大切だと考えます。また来年度も地域の皆様と共に、盛大に開催できることを祈念しております。

❖ セブンイレブン

福岡高宮駅前店
店長 芳野 詩子様より

高宮で生まれ育ち、高宮八幡宮の夏まつりには幼いころから参加していました。神輿をかついで家々をめぐり、ジュースやお菓子をいただいた思い出があります。だからか、私自身も「いつかはお返しがしたい」という想いがずっとありました。

2008年に高宮駅前に店を構えてからは毎年、夏まつりの数時間前から駐車場を空けて準備し、飲み物やお菓子をふるまっています。子どもたちがずっとお祭りに参加でき、やがて次世代に引き継げるよう、文化を守っていきたいものです。地域に密着し、共存共栄しながら応援していきます。

神輿をかついだ後のお楽しみ。

献菓・ご奉賛の御礼

夏越祭・獅子まつり斎行に際し、献菓・ご奉賛いただきました皆様の奉名は社頭に掲示いたします。温かいお心遣いに感謝申し上げます。

◎献菓御礼

フルタ製菓株式会社、風月フーズ株式会社、株式会社やずや、株式会社 ひよ子

いまさら聞けない神社の話

神饌と仏飯 仏壇のお供えは食べてはダメ？

神饌（しんせん）とは神様へのお供え物のこと。祭典後にお下がりとして直会にていただき、神と同じ物を食べることによって神の御稜（お力）を取り入れることを意味します。右記の「神事を識る」でも取り上げた神人共食の本質です。

今日の仏飯は、ご本尊（釈迦如来、観音菩薩など）へのお供えと、ご先祖へのお供えが混同されています。ご本尊は御霊を救う側で、ご先祖は救ってもらう側であるため、両者は決定的に異なります。今ではご本尊と位牌が上下に配置され、一体となっている仏壇が一般的ですが、元来、仏壇と位牌棚は別でした。

したがってご本尊にお供えした物はいただいても、ご先祖にお供えした物を食べることはお薦めできません。ご先祖の供物を食べるとご先祖の影響を受け、意図せずご先祖の魄（はく）（負の想念・力）に触れてしまうこともあります。

例えば箱菓子をお供えする時は、ご本尊へのお供えとし、個別のご先祖には箱から取り出して、それぞれにお茶と一緒にお供えすると良いでしょう。

神ことば

「御神歌集」から選んだ句を読み解きます。

産土に
生まれ出でつつ　産土に
帰るこの身と　知らずやも

産土の神に霊魂をいただいて生まれ出で、現世で見守られながら霊魂を成長させていただき、やがて死を迎えては霊魂の世界に導かれ、親である神の元へ戻っていく。それを知らずに生きているのだなあ―という句です。人の語源は「霊（ヒ）止（ト）」、神の御霊を戴く者という意味です。そのことを胸に皆で成長していきましょう。

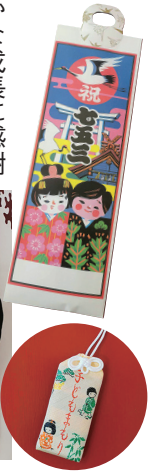
産土の
神な忘れそ　産土の
恵みは後の　萬世までに

産土神のことを人は忘れていても（知らなくても）、神の恵みは永遠に続くのである。人と生まれたこの上ない幸い、有り難さを感謝しましょう。そうして心を通わせることでより一層のお恵みや自身の成長につながるでしょう。

神社をいろどる祝い事

✽ 七五三

子どもの健やかな成長に感謝し、これからも変わらずお守りいただけるよう神様にお願いする行事です。奇数は「陽」でめでたい数とされ、お祝い事に数字が関係すると好んで選ばれていました。「七五三」もめでたく、災いを寄せ付けない数字でもあるとして定着しています。



●初穂料：五千円より
●授与品：千歳飴、手持ち日本国旗、キャラクターグッズセット
※祈願申込の方は境内で自由に記念撮影可能（カメラマン手配可）

✽ 初宮詣

無事に生まれてきた報告と感謝を申し上げ、お子様の健やかな成長を祈願いたします。

2022年12月斉行斎行。

✽ 神前結婚式のご案内

高宮八幡宮での神前式をご希望の方は、高宮庭園茶寮までお問い合わせください。

＜お問い合わせ＞
初宮詣・七五三・御祈祷は社務所まで。着付け、着物レンタル、カメラマンをご希望の方はご相談ください。
☎092・522・8435
神前式は高宮庭園茶寮まで
☎092・710・1367

❖ 神様ごとのご相談

不運なことに見舞われたという開運の相談事は、常にあります。中には、理屈で考えても説明できない悩み事に直面し、ふと神様やご先祖様といった目に視えない存在を意識することもあるでしょう。今までの唯物的な思考が崩れ、自身の価値やアイデンティティを探求する気持ちが芽生えたり、親御さんが高齢になり、「家」のこと（神棚、仏壇、墓、供養など）をきちんとしたいという思いがわいたりすることもあります。

根本的解決には、定期的なお祓いとご祈祷のほか、家庭での先祖供養や先祖の想念の浄化が必要です。古神道での先祖供養は、古来より受け継がれた霊魂観（死後世界の在りよう）に基づき、祭祀や祈り方が伝わっています。取り組むと、先祖のみならず、生きている人の心持ちや想念の変化にも繋がります。

❖ 崇敬会で作法を伝授

高宮八幡宮・崇敬会では、神仏先祖の祀り方・祈り方、人としての正しい生き方を学ぶほか、神仏に先祖の浄化供養をお願いする作法をお伝えしています。御神霊とのムスビによって浄化が行われるので、ご自身の宗派はそのままに、道具立て（金銭負担）がなく、すぐに始められます。各家のご先祖が浄化することが世の繁栄に繋がり、そのことが神社の本来の存在理由なのです。

また、崇敬会は主に古神道の観点から、講座や刊行物を通じて、日本古来の本質的な教え、陰陽道の特徴的な教えを継承しています。元々、本紙『やまもも』で古神道について発信しておりましたが、リニューアルに伴い、今後は『古道研究会』を崇敬会会報として引き続き発行してまいります。

❖ 結びのことば

村の鎮守の神様の今日はめでたい御祭日――今年の秋祭りは全国で賑やかに行われることでしょう。天照大御神が邇邇芸命（ににぎのみこと）に授けた三大神勅の一つ、新嘗祭は収穫への感謝であり神（自然）から一年間の命の元をいただく重儀（重要な儀式）です。新嘗祭と、これに呼応した秋祭りを続けていくことで、神々と国、民は永遠に繁栄するという神と人とのお約束があります。今年限りで、政治・経済の混迷を開き、国としてあるべき姿に進んでいけることを祈念したいと思っております。

宮司 古賀靖啓

【協力】山桃会（世話人会）… 三牧歌奈子（マーブル・デザイン）、奥永智絵（ホクレア社）